

強まるロシアの脅威

日清戦争後、日本は腐敗・疲弊した朝鮮の内地改革・財政救済を急いだ。しかし、朝鮮の政府は内部対立を続け、反日親露を掲げた閔妃らが、隙を突いて政権を奪い返した。そして、懐柔不可能となった閔妃が殺害されると、日本は欧米列強からの非難をかわすため、朝鮮に対する政策を放棄してしまった。

○日清戦争後の清

●大国の圧力と対ロシアの敵意

1895年、⁽¹⁾ _____
...⁽²⁾ _____ . ⁽³⁾ _____ . ⁽⁴⁾ _____ が、
日本に⁽⁵⁾ _____ 半島を清へ返還するように勧告した事件



日本は、3大国の圧力に屈し、勧告を受け入れて返還した。

⇒日本は、標語「⁽⁶⁾ _____」で国民の対ロシアの敵意を増大させ、
軍備の拡張に努めた。

◇(6) …報復のために苦しみ努力すること



図1 朝鮮への影響を競う日露と見守る英

ドイツ主体の三国干渉—黄禍論

1895年、ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世は、白色人種に対する黄色人種の脅威を説いた。これを「黄禍論」と呼び、政治的意図から出た主張であった。地理的に黄禍阻止の最適位置にロシアがあり、阻止の前衛を果たすべきことを述べて、ロシアの東アジア進出を煽り、また、東アジアでイギリスと対立させる。これにより、バルカン半島におけるロシアの脅威を減殺し、ドイツが進出する。このような構想の具体的実行が三国干渉であった。よく誤解されるが、三国干渉の主体はドイツであった。



●進む中国分割

清は、日本への賠償金支払いを欧米諸国に頼った。

⇒欧米列強は、貸与の担保として清の領土を「租借（一定期間の領土借用）」した。

<諸外国による中国分割>

ドイツ...⁽⁷⁾ _____ 湾 (⁽⁸⁾ _____ 半島) / ロシア...⁽⁹⁾ _____ . ⁽¹⁰⁾ _____
イギリス...^{いかいえい}威海衛・九竜半島 / フランス...広州湾

<アメリカの伝統の棄却>

1823年、アメリカ大統領モンローは、ヨーロッパ諸国に対して、相互の不干渉を要求するモンロー宣言をおこなった。

⇒アメリカは、この宣言を外交の伝統として発展したが、中国進出には遅れた。



1899年、国務長官ジョン=ヘイはモンロー宣言を捨て、
中国へ先に進出した欧米列強に対して次の宣言をおこなった。

- ①門戸開放…中国における商業活動の自由
- ②機会均等…中国における参入機会の均等化

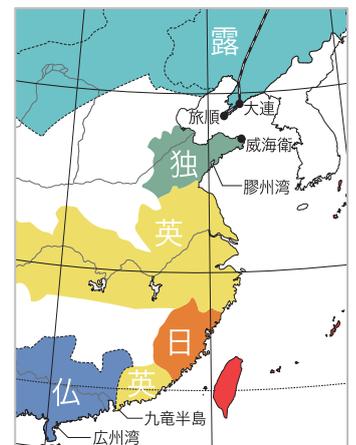


図2 中国分割



図3 モンロー



図4 ジョン=ヘイ

●北京駐兵とロシアの満州占領

1899～1900年、⁽¹¹⁾ _____

…清の宗教結社⁽¹²⁾ _____ が、欧米列強の中国分割に反発し、
標語「扶清滅洋」^{ふしんめつよう}を掲げて外国人排斥に臨んだ一連の事件



1900～1901年、⁽¹³⁾ _____

…(12)による各国公使館の包囲と、便乗した清の各国への宣戦に、
英・米・日・仏・露・独など8カ国連合軍が出兵したこと



1901年、⁽¹⁴⁾ _____ 調印

…(13)で降伏した清が、日本を含む出兵国と結んだ協約
…公使館護衛のために各国軍隊の北京駐兵を承認

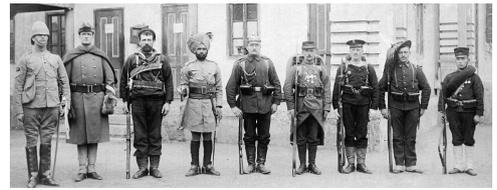


図5 連合軍(左から順に、英・米・露・英領印・独・仏・墺・伊・日)



図6 満州(色塗り部分)

<北清事変中のロシア>

北清事変の際に、ロシアは義和団からの東清鉄道保護を口実に、
⁽¹⁵⁾ _____ 全域を不当に占拠した。

◇(15) …清の東北部の名称で、ロシアはその一部を清から獲得し、
1898年に東清鉄道を敷設

○日清戦争後の朝鮮と台湾

●朝鮮の独立と“親露派”政権

1895年の⁽¹⁶⁾ _____ 締結で、朝鮮が清から独立した。

⇒朝鮮では、日清戦争での清の敗北や三国干渉での日本の弱体を見て、
閔氏^{びん}らがロシアに接近して大院君から政権を奪った。



1895年、閔妃殺害事件

…日本公使三浦梧楼^{ごろう}が、朝鮮の王妃⁽¹⁷⁾ _____ の殺害を指揮し、
大院君を再度擁して“親日派”政権樹立を図った事件

…事件後、国王高宗がロシア公使館に逃れ、“親露派”政権樹立



1897年、“親露派”政権は、朝鮮が独立国であると示すために、
国号を大韓帝国と改め、高宗が皇帝に即位した。

◇「～国」を属国、「～帝国」を独立国と見なす中国の伝統に由来

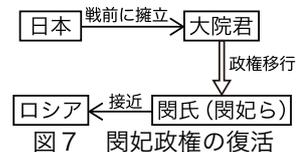


図7 閔妃政権の復活



図8 閔妃暗殺と親露政権



図9 閔妃



図10 高宗

●台湾の統治

遼東半島の返還後、日本は新たに領有した⁽¹⁸⁾ _____ の統治に力を注いだ。

⇒1895年、樺山資紀^{かばやますけのり}が⁽¹⁹⁾ _____ の初代台湾総督に就任した。

⇒樺山は、軍政をしいて島民の抵抗を武力で鎮圧したが、一部の抵抗は続いた。



1898年以降、第4代台湾総督児玉源太郎の下で、
民政局長後藤新平が次のことで統治体制を整備した。

①土地調査事業②鉄道の敷設③台湾銀行や台湾製糖会社の設立



図11 台湾総督府



図12 後藤新平